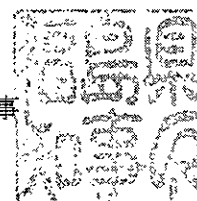


20道第7370号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長様

福島県知事



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼ありましたこのことについては、別紙のとおりです。

（事務担当 土木部道路計画課 副課長兼主任主査 室井良文 024-521-7469）

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

● コスト縮減と事業の効率化について

道路事業の実施にあたっては、道路利用者の安全・安心の確保を最優先とし、地域の均衡性を重視し県民が真に求めるものを見極めた上で、計画策定・事業実施・維持管理に至る各段階においてライフサイクルコストの低減・コスト縮減に努め効率的に事業を実施していくことが重要である。

● 道路整備の促進と財源の確保・充実について

➤ 道路特定財源の一般財源化に当たっては、地方財政の危機的状況を鑑み、地方財政に影響を及ぼさないよう道路予算を十分確保する措置が必要であり、道路整備を着実かつ計画的に進めるため、これまで以上の額を「地方枠」として確保するとともに、地方による道路整備の自由度を最大限拡大するよう強く要望する。

・経済活動を支え、地域間の交流・連携に必要不可欠である高規格幹線道路網は、これまでの整備の進捗を確保しながら国の責任により着実に整備を進めること。

・暫定税率失効に伴う地方の収入減について、早急に補填措置をとること。

・一般財源化に当たっては、今後の道路整備や維持管理費等に支障が生じないよう、必要な財源として「地方枠」を確保・充実し、その配分に当たっては、道路整備の遅れている地域に対しての配慮をすること。

・地方の自主性・裁量性が十分に活かされる「地方道路整備臨時交付金制度」の維持・拡充および、地方の財政負担軽減に資する「地方道路整備臨時貸付金制度」の継続を図ること。

・冬期間の円滑な交通を確保するため、防雪・除排雪事業をはじめとする冬期道路交通対策を積極的に図ること。

・今後増大が見込まれる老朽化した橋りょうやトンネル等の維持補修、管理を着実に促進し、災害に強い道路整備を図ること。

● 直轄事業負担金の廃止・縮小について

➤ 直轄事業負担金については、事業主体が負担すべきであり、責任の明確化のためにも廃止・縮小すること。

● 道路事業の評価に関する提案について

➤ 道路事業の事業評価について、既存の費用対効果の算定には含まれない地方の実情を反映させるため、

① 豪雨や地震等の災害時通行止めの影響 ② 救急救命への影響 ③ 冬期の積雪による影響

④ 環境への影響 ⑤ 実態に即した評価機関の採用(40年→60年) ⑥ 近年の市場に配慮した社会的割引率の採用

など、新たな便益評価項目の追加を提案する。

1. 道路をとりまく新たな時代のうねり

社会のうねり

- 少子化・人口減少社会への突入
- 高齢化の急速な進展・長寿命化
- 持続可能型社会の希求
- 国の財政危機
- 道路特定財源の一般財源化

地方行財政のうねり

- 地方分権の進展
- 年々厳しさを増す地方財政
- 公共事業予算の縮減

地方をとりまかうねり

- 大都市と地方の格差拡大
- 地域間競争の激化
- 深刻化する過疎化
- 中心市街地の活力低下
- 中山間地の活力低下
- 地域医療の広域化

地球規模のうねり

- 地球の温暖化
- 環境問題の深刻化
- エネルギー問題の顕在化

2. 道路の役割・効果

福島県が置かれている現状

- 平成9年をピークに人口減少(少子化、人口流出)
- 高齢化の急速な進行
- 中山間地の深刻な過疎化、高齢化、活力低下
- 県土面積の約82%が過疎・中山間地域
- いわゆる“限界集落”の増加
- 中心市街地の空洞化、活力低下
- 救急医療や地域医療の広域化
- 都市部と周辺地域の地域格差
- 交通手段の多くを車に依存
- 遅れている道路整備
- 地域から多数の道路整備要望

道路の役割

交通機能

- ◆人の移動や物流の大半を受け持つ基盤【トラフィック機能】
- ◆鉄道・空港、物流拠点、観光地などのさまざまな拠点へのアクセス【アクセス機能】

空間機能

- ◆市街地形成(都市の骨格形成)
- ◆防災空間(延焼防止、避難場所、消防活動)
- ◆環境空間(緩衝、緑化、アメニティー)
- ◆収容空間(情報、駐車場、ライフライン)

◆まちづくりの
ステージ

有効に
利活用

地域・県勢の発展
豊かな暮らし

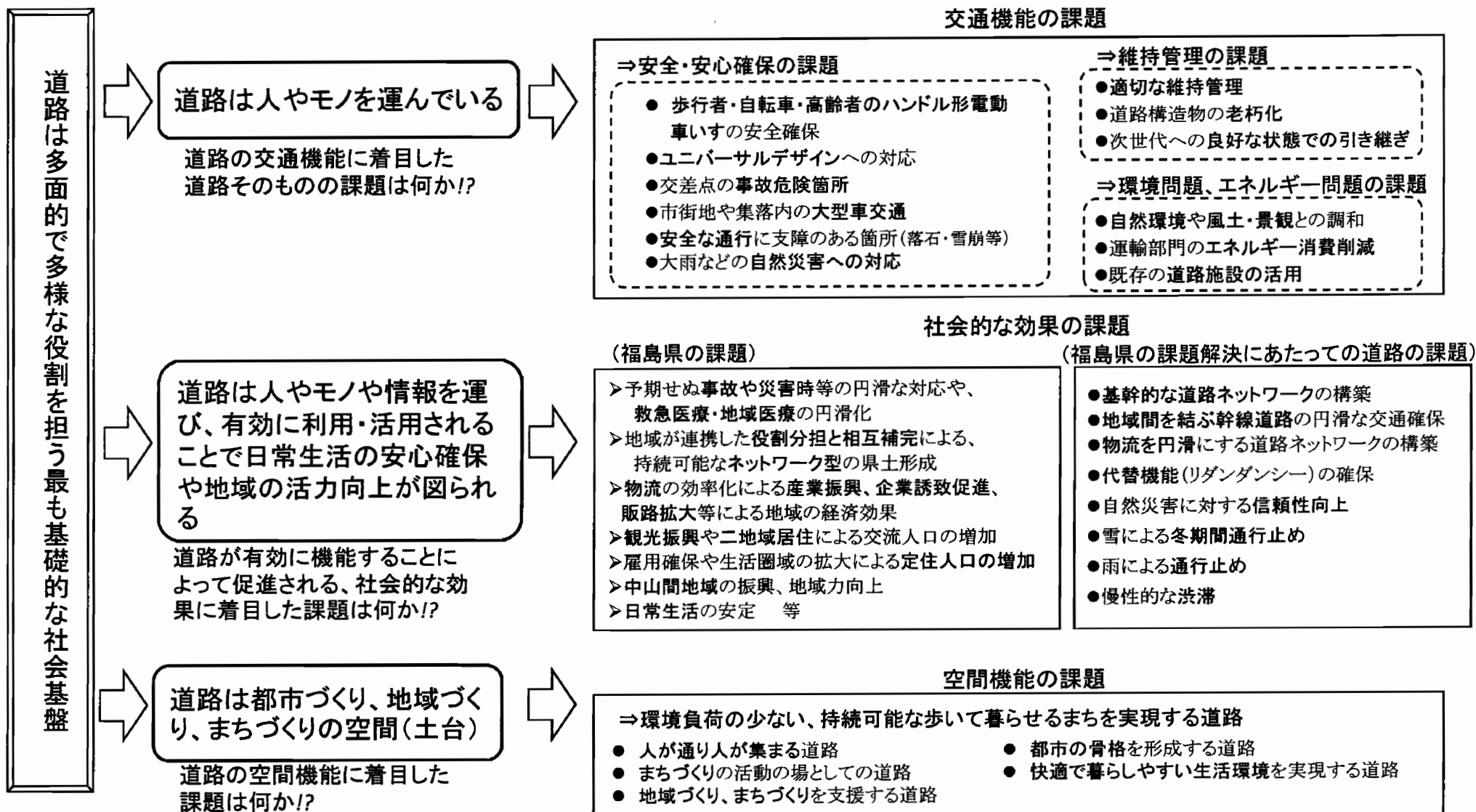
- 一本の道路が地域を大きく変える!!
- 非常時の緊急避難・緊急輸送、救急医療搬送など、道路は命を救う!!

3. 福島県の道路の課題

3-1 課題のとらえ方

課題を洗い出すための切り口

切り口に対応した課題



3. 福島県の道路の課題

3-2 課題のまとめ

課題分類図との対応項目				
福島県の道路の課題				
	歩道	危険箇所	幹線道路	維持管理
① いつでも安全に安心して利用できる道路が求められている。	○	○	○	○
② 既存の道路を長く安全に有効に使うことが求められている。				○
③ 地球温暖化対策、自然環境、景観に対する道路の役割が増大している。			○	
④ 日常の暮らしや救急医療、災害時・緊急時等の安心を確保する道路が求められている。	○	○	○	
⑤ 活力ある持続可能なネットワーク型の県土を実現する基幹的な道路網の構築が求められている。			○	
⑥ 過疎・中山間地域の自立支援や地域の課題解決など、地域力を高めるための地域間を結ぶ幹線道路網の構築が求められている。			○	
⑦ 物流を円滑にする道路網の構築が求められている。			○	
⑧ 積雪・寒冷による条件不利を克服する道路が求められている。		○		
⑨ 都市づくり、地域づくり、まちづくりのための道路が求められている。			○	

道路の交通機能に着目した道路そのものの課題

道路によって促進される効果に着目した課題

道路の空間機能に着目した課題

4. 今後の道路整備の基本的な方向性

県づくりの基本方針

- 地域の特色を生かした活力ある県づくり
- 安全・安心が支える住み心地の良い県づくり
- 人にも自然にも心暖かな、思いやりが息づく県づくり

基幹的な道路や幹線道路
のネットワーク形成

⑤⑥⑦

雪や寒さを克服する
道路整備

⑧

思いやりを持った道路整備

①

既存の道路の長寿命化と
適切な維持管理

②

都市・地域・まちづくりを
支える道路整備

⑨

環境問題へ対応した道路
自然・景観と調和した道路

③

○数字は整理した課題の番号

①②④

安全・安心の確保を最優先

基本目標：『人のための道づくり』

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等) (1/5)

福島県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
〔安全・安心を確保する道路整備〕	● 歩道整備事業 ➢ 国道118号 矢祭町大字戸塚(東館小学校) ➢ (主)常磐勿来線 いわき市常磐下湯長谷町(磐崎小学校) ➢ (主)喜多方西会津線 喜多方市桜が丘(市立第一小学校) ● 東北中央自動車道 ➢ 国道115号 阿武隈東道路 相馬市山上～相馬市東玉野 ➢ 国道115号 霊山道路 伊達市霊山町大字下小国～ 大字石田 ● 会津縦貫北道路 (国道121号) 喜多方市～会津若松市 ● 会津縦貫南道路 (国道121号湯野上バイパス 他) 会津若松市～田島町	・歩道整備が完了することにより、小学校の通学路整備が完了、または整備推進が図られ、交通事故の危険性が減少し、歩行者の安全・安心が図られる。 ・災害時の緊急輸送路の確保 ・安全性の高いバイパスに交通が転換することにより、交通事故数が減少。 ・相馬市～福島市間の所要時間が短縮することにより、高度医療施設へ搬送する救急患者の救命率が向上。 ・現道の国道121号の交通が会津縦貫北道路に転換されることによる交通混雑の緩和と交通事故の減少による安全性の向上が図られる。 ・現道は落石や雪崩等により通行止めとなるが、バイパス整備により、安全・安心な交通が確保される。 ・南会津町～会津若松間が約30分短縮することにより、高度医療施設へ搬送する救急患者の救命率向上が図られる。	

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
〔雪や寒さを克服する道路整備〕	● 国道114号 小綱木バイパス 川俣町小綱木 ● 国道400号 田島バイパス 南会津町高野～下郷町戸赤	・バイパス整備により、急勾配が解消され冬期間においても安全・安心な通行が確保される。 ・円滑な交通の確保により、県北地域と双葉地域の連携が強化される。 ・冬期通行不能のため、約20kmの迂回を強いられていたが、解消される。 ・冬期間、南会津町～昭和村間は約45分短縮。 ・現道は落石危険箇所が多数あるが、バイパス整備により、安全・安心な交通が確保される。	
〔基幹的な道路や幹線道路のネットワーク形成〕	● 常磐自動車道 富岡町～宮城県境 (再掲) ● 東北中央自動車道 ➢ 国道115号 阿武隈東道路 相馬市山上～相馬市東玉野 ➢ 国道115号 霊山道路 伊達市霊山町大字下小国～ 大字石田	・東北自動車道、磐越自動車道などとラダー型ダブルネットワークを形成することにより、地域間の連携・交流の促進や災害や事故発生時の代替機能の向上を図られる。 ・高度医療施設へ搬送する救急患者の搬送時間の短縮、安静搬送が可能となり救命率が向上する。 ・災害時の緊急輸送路の確保 ・安全性の高いバイパスに交通が転換することにより、交通事故数が減少。 ・相馬市～福島市間の所要時間が短縮することにより、高度医療施設へ搬送する救急患者の救命率が向上。 ・物流の効率化が図られる。	・平成26年度全線開通予定

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
	● あぶくま高原道路 矢吹町～小野町	・東北自動車道と磐越自動車道を結び、高速道路と一体となって高速交通ネットワークを構築し、あぶくま地域と県南、南会津及び北関東地方との交流拡大が図られる。 ・東北自動車道や磐越自動車道などが事故や災害等により通行止めになった場合、それらの代替機能を発揮する。 ・福島空港へのアクセス性が向上し、高速定時性が確保される。	・平成22年度全線開通予定
	(再掲) ● 会津縦貫北道路 (国道121号) 喜多方市～会津若松市	・現道の国道121号の交通が会津縦貫北道路に転換されることによる交通混雑の緩和と交通事故の減少による安全性の向上が図られる。 ・米沢市から南会津町までの5市町で形成される会津・米沢地域観光圏に対する観光交流支援が図られる。	
	(再掲) ● 会津縦貫南道路 (国道121号湯野上バイパス 他) 会津若松市～田島町	・現道は落石や雪崩等により通行止めとなるが、バイパス整備により、安全・安心な交通が確保される。 ・南会津町～会津若松間が約30分短縮することにより、高度医療施設へ搬送する救急患者の救命率向上が図られる。 ・当該地域は、国交省が認定する会津・米沢地域観光圏内の「大内宿」や「塔のへつり」など観光拠点が集まる地域であり、観光の周遊化が図られ、さらなる観光交流の促進が図られる。	

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等) (4/5)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
	● 国道13号 福島西道路 福島市 ● 国道118号 松塚バイパス 鏡石町～須賀川市 ● 国道289号 荷路夫バイパス いわき市～鮫川村 ● 国道118号 若松西バイパス 会津若松市	・福島市内の放射状の幹線を環状につなぐことにより、幹線道路がネットワークとして有機的に機能し、交通混雑の緩和が図られる。 ・交通事故の低減、沿道交通環境の改善などが図られる。 ・現道の狭隘・屈曲で急勾配の歩道未整備区間をバイパスすることにより道路利用者の安全の確保が図られる。 ・合併市町村中心部の円滑な交通確保が図られる。 ・会津地方と福島空港のネットワークが強化されることにより、福島空港の利便向上が図られる。 ・現道は異常気象時通行規制区間であり、バイパス整備により、安全・安心な交通が確保される。 ・県南部から重要港湾小名浜港へのネットワークが強化されることにより、定時性が確保されるなど、効率的な物流が図られる。 ・会津若松市内の交通混雑の緩和が図られ円滑な交通が確保される。 ・磐越自動車道(会津若松 IC)へのアクセスが強化される。	

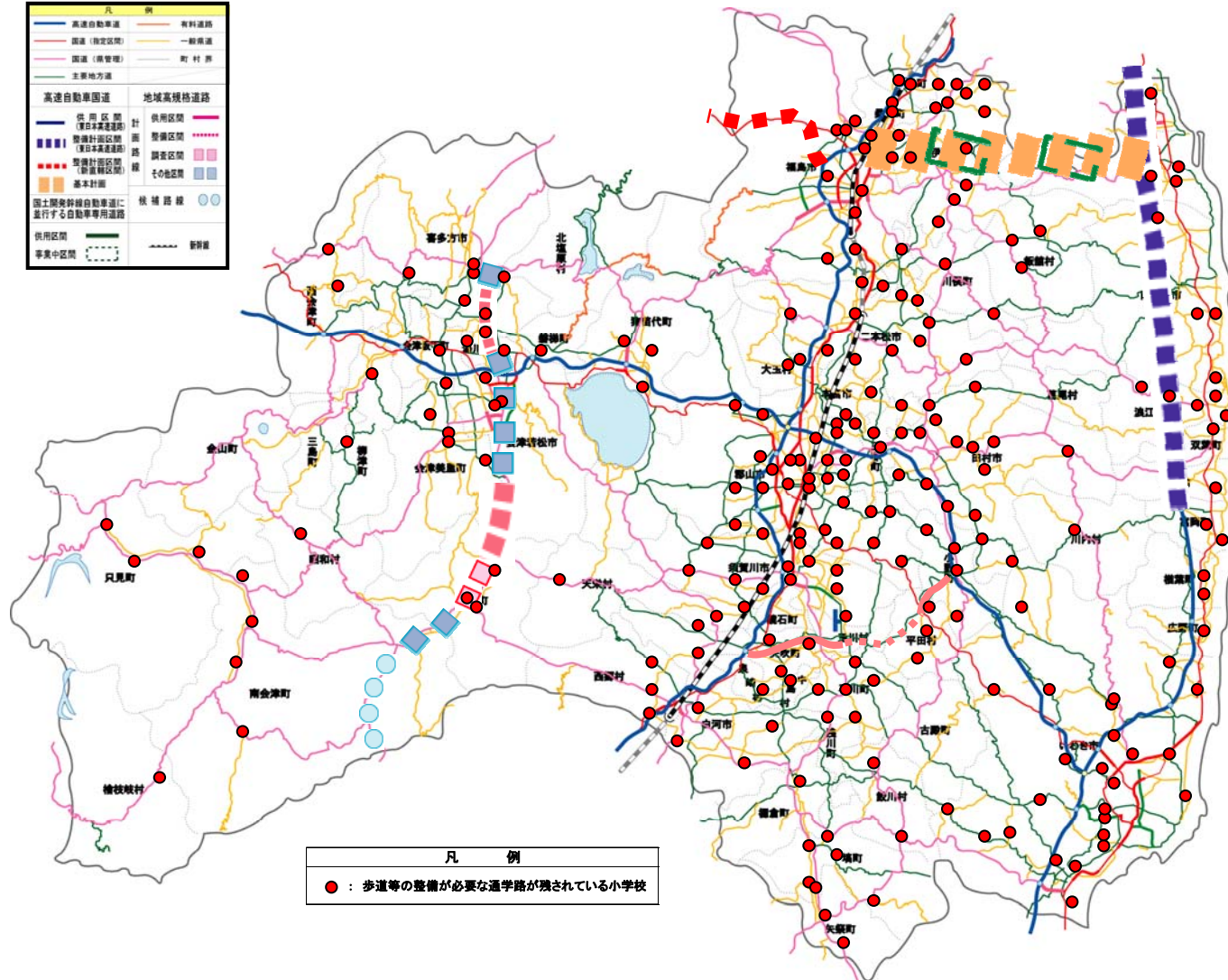
③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等) (5/5)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
(既存の道路の 長寿命化と適切 な維持管理)	老朽橋対策 ● 橋りょう補修(堀川橋) 白河羽鳥線(白河市) ● 橋りょう補修(小野川橋) 柳津昭和線(柳津町) ● 橋りょう補修(長瀬川橋) 国道115号(猪苗代町) ● 橋りょう補修(門口橋) 富岡大越線(富岡町) ● 橋りょう架け替え(鮫川橋) 常磐勿来線(いわき市)	(橋りょう補修) ・既存橋梁を補修して健全性を保つことにより、地域経済に重大な影響をもたらす通行制限を回避できる。 ・補修工事を行うことで既存橋梁の有効利用と更新時期を遅らせることができる。更新サイクルの長期化による更新費用の削減が期待できる。 (橋りょう架け替え(鮫川橋)) ・老朽化した現在の鮫川橋を架け替えるとともに前後の取付部を拡幅することで、安全で円滑な交通の確保が図られる。	

課題分類図1 歩行者の安全に対する代表的な課題

たくさんの小学校で児童が交通事故の危険にさらされています！！

通学路の安全確保が
急務！！

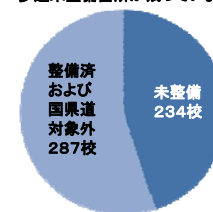


福島県内の国道・県道で、歩行者の安全・安心のために歩行空間の確保が必要な箇所を下記の条件で選定し図示しました。

福島県内の国道・県道には歩道の未整備箇所が多く残されており、毎日多くの歩行者が日常的に交通事故の危険にさらされています。小学校の通学路においても歩道の未整備箇所がまだまだたくさんあり、通学児童の安全を守るためこれらの解消が急務となっています。そのため、小学生が通学に使っている道路の中でも、“40人以上の児童が通学している道路” または“学校の入り口から1km以内で学校が通学経路に指定している道路”

については、特に緊急性が高い箇所であるため、福島県内の521校のうち、これらの条件に該当する歩行区間の未整備箇所が残されている小学校を選んで図示しています。

福島県内の小学校521校のうち、234校で歩道未整備箇所が残っています



未整備の小学校 234校

No.	小学校	市 町 村	安全な歩行空間が確保されていない道路とその区間の延長(km)
●県北地域			
	栗野小学校	伊達市	1.3 (主)浪江国見線
	小坂小学校	国見町	1.5 (主)白石国見線 他
	油井小学校	二本松市	3.1 (一)福島安達線 他
	他 44校		
	県北地域 全120校中 47校		62.4
●県中地域			
	常葉小学校	田村市	4.1 国道288号 他
	中谷第二小学校	石川町	2.2 (一)石川錦子線
	湯本小学校	天栄村	2.0 国道118号
	他 71校		
	県中地域 全141校中 74校		77.3
●県南地域			
	釜子小学校	白河市	1.4 (主)棚倉矢吹線 他
	東館小学校	矢祭町	1.8 国道118号 他
	他 23校		
	県南地域 全46校中 25校		26.0
●会津若松地域			
	河東学園小学校	会津若松市	1.3 (主)北山会津若松線 他
	笈川小学校	湯川村	1.6 (一)浜崎高野会津若松線
	高田小学校	会津美里町	1.1 国道401号 他
	他 12校		
	会津若松地域 全37校中 15校		12.2
●喜多方地域			
	喜多方第一小学校	喜多方市	0.2 (主)喜多方西会津線 他
	熊倉小学校	喜多方市	5.7 (主)北山会津若松線 他
	他 10校		
	喜多方地域 全35校中 12校		14.3
●南会津地域			
	南郷第一小学校	南会津町	1.1 国道401号 他
	南郷第二小学校	南会津町	1.3 国道289号 他
	朝日小学校	只見町	1.8 国道289号
	他 8校		
	南会津地域 全16校中 11校		15.0
●相双地域			
	上真野小学校	南相馬市	1.2 国道6号 他
	新地小学校	新地町	1.3 (一)新地停車場釣師線 他
	熊町小学校	大熊町	1.0 (一)小良ヶ浜野上線
	他 21校		
	相双地域 全49校中 24校		35.7
●いわき地域			
	湯本第一小学校	いわき市	0.6 (主)常磐勿来線
	磐崎小学校	いわき市	0.6 (主)常磐勿来線
	他 24校		
	いわき地域 全77校中 26校		24.2
	福島県全体 全521校中 234校		287.1

課題分類図2 車両の安全に対する代表的な課題

安心して通行できない道路が まだまだたくさん残されています！！

過疎・中山間地の
自立・活性化を支援!!

福島県内の国道・県道のうち、道路の安全確保や冬期交通に関する課題について、代表的な箇所を明示しました。

- 1 毎年冬になると積雪により通行止めになる箇所のうち、特に地域住民の生活に密着した道路で、通行止めになると、日常生活において多大な迂回が必要になる箇所の代表的な箇所
- 2 県内各地域間を結ぶ代表的な幹線道路のうち、緊急輸送路における落石・雪崩の危険箇所の代表的な箇所
- 3 県内各地域間を結ぶ代表的な幹線道路のうち、地吹雪による視界不良で頻繁に通行止めになる箇所の代表的な箇所
- 4 県内各地域間を結ぶ代表的な幹線道路のうち、道路の勾配が急で路面凍結によるスリップ事故の危険性が特に高い箇所の代表的な箇所

代表箇所 257箇所

1. 日常生活への影響が特に大きい冬期交通不能区間

No.	路線名	区間	延長(km)
1	国道252号	新湯風境～只見町大字石伏	14.4
2	国道400号	南会津町大字野宮～昭和村大字大戸	7.3
3	国道400号	柳津町大字鹿谷～西会津町大字下谷	3.6
4	国道401号	会津美里町大字宮川～昭和村大字小野川	13.3
5	国道459号	喜多方市山部町相川～喜多方市上三宮吉川	7.0
6	(主)津波若松原越境線	北塩原村大字権原～北塩原村大字権原	6.0
7	(一)小林原の川線	只見町大字小林～只見町大字小川	4.6
8	(一)布沢橋田線	只見町大字布沢～金山町大字山入	7.0

冬期交通不能区間 全57区間中、8区間

2. 緊急輸送路の落石・雪崩危険箇所

No.	路線名	項目	区間	箇所
9	国道4号	落石・雪崩	白河市賀根	1
10	国道4号	落石・雪崩	二本松市坂本～福島市伏拝	4
11	国道4号	落石・雪崩	いわき市大井～双葉県境	2
12	国道6号	落石・雪崩	茨城県境～いわき市小浜町	4
13	国道6号	落石・雪崩	いわき市常盤下船尾町～内郷町	3
14	国道6号	落石・雪崩	いわき市久之浜町～広野町折木	2
15	国道6号	落石・雪崩	浪江町藤崎	2
16	国道13号	落石・雪崩	福島市飯坂町中野～山形県境	10
17	国道49号	落石・雪崩	いわき市好間町大和～三和町合戸	10
18	国道49号	落石・雪崩	いわき市三和町下市～三和町上三坂	8
19	国道49号	落石・雪崩	平田村錦子～田村町田母神	9
20	国道49号	落石・雪崩	郡山市熱海町～猪苗代町山湯	3
21	国道49号	落石・雪崩	会津坂下町坂本～西会津町坂本	15
22	国道113号	落石・雪崩	福島市飯坂町新敷	2
23	国道114号	落石・雪崩	福島市立子山～福島市飯坂町青木	7
24	国道114号	落石・雪崩	川俣町大井～浪江町藤崎	10
25	国道115号	落石・雪崩	福島市山上～福島市下小国	6
26	国道118号	落石・雪崩	茨城県境～矢野町湯野上	4
27	国道118号	落石・雪崩	須賀川市西川～下郷町湯野上	43
28	国道121号	落石・雪崩	下郷町湯野上～栃木県境	11
29	国道252号	落石・雪崩	只見町叶津～三島町名人	9
30	国道288号	落石・雪崩	田村市常盤町～田村市都路町	1
31	国道288号	落石・雪崩	双葉町山田～双葉町新山	2
32	国道289号	落石・雪崩	南会津町山口～南会津町田島	3
33	国道289号	落石・雪崩	下郷町豊成～西郷村真船	2
34	国道289号	落石・雪崩	塩田町常世北野～飯川村藤瀬	2
35	国道294号	落石・雪崩	白河市湯東～天栄村牧之内	3
36	国道349号	落石・雪崩	飯川村赤坂東野～西郷町新田	2
37	国道349号	落石・雪崩	田村市大泉町栗出	4
38	国道352号	落石・雪崩	榎枝郷村寄野山～南会津町大沢	31
39	国道399号	落石・雪崩	川内村上川内～田村市都路町	7
40	国道399号	落石・雪崩	島尾村落合～浪江町南津島	11
41	国道400号	落石・雪崩	昭和村下中津川～金山町川口	7
42	国道459号	落石・雪崩	二本松市小浜～二本松市安新郷	2
43	(主)原野川保線	落石・雪崩	南相馬市原町区～会津町白石	2
44	(主)原野川保線	落石・雪崩	飯坂町二飯坂～川俣町飯坂	1

H8防災点検 落石、雪崩の要対策箇所 全2,003箇所中、237箇所

3. 地吹雪による異常気象時通行規制区間

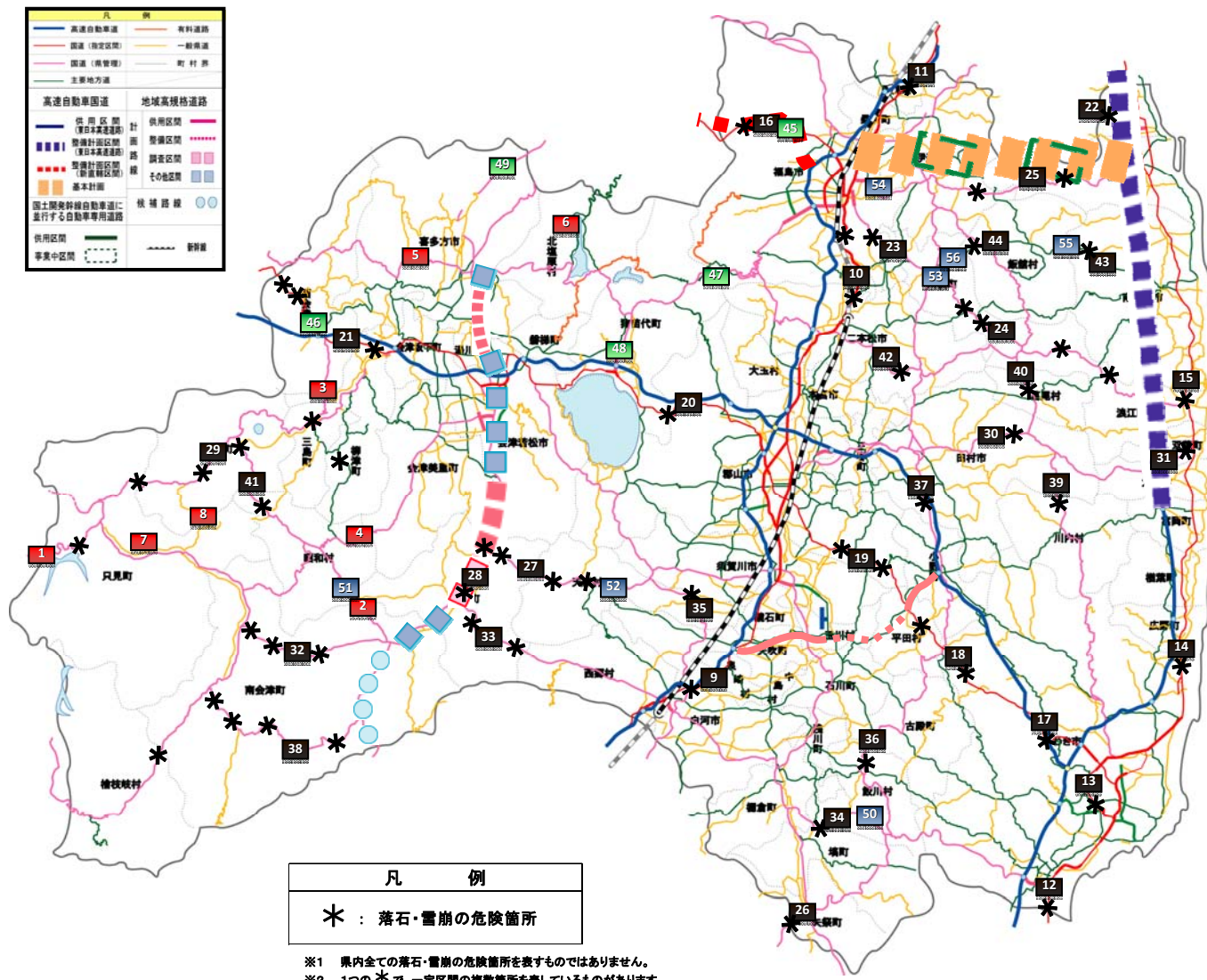
No.	路線名	箇所	延長(km)
45	国道113号	福島市飯坂町中野～山形県境	19.0
46	国道49号	会津坂下町大沖～新海県境	30.0
47	国道115号	福島市土湯温泉町～猪苗代町大字若宮	13.1
48	国道115号	猪苗代町大字西～猪苗代町大字堅田	2.4
49	国道121号	喜多方市熱湯加納町	9.5

H8防災点検 地吹雪の要対策箇所 全188箇所中、5区間

4. 路面凍結による事故の危険性が特に高い箇所

No.	路線名	箇所	備考
50	国道114号	川俣町小堀木	
51	国道115号	福島市山口	
52	国道118号	天栄村大字牧之内	龍坂峠
53	国道289号	飯川村江意田	
54	国道400号	昭和村大字大戸	舟島峠
55	(主)原野川保線	南相馬市原町区	八木沢峠
56	(主)原野川保線	川俣町飯坂	水境峠

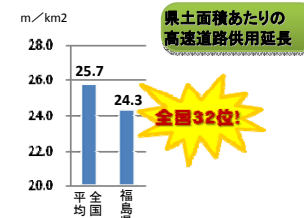
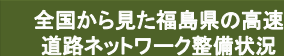
凍結抑制剤散布箇所 全639箇所中、7箇所



課題分類図3 基幹的な道路や地域連携道路の代表的な課題

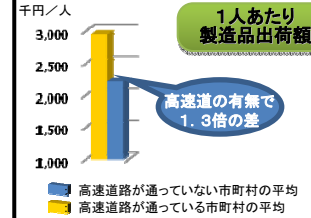
まちからまちへの移動が
まだまだ不便です！！

緊急避難や救急医療を支える命の道路!!



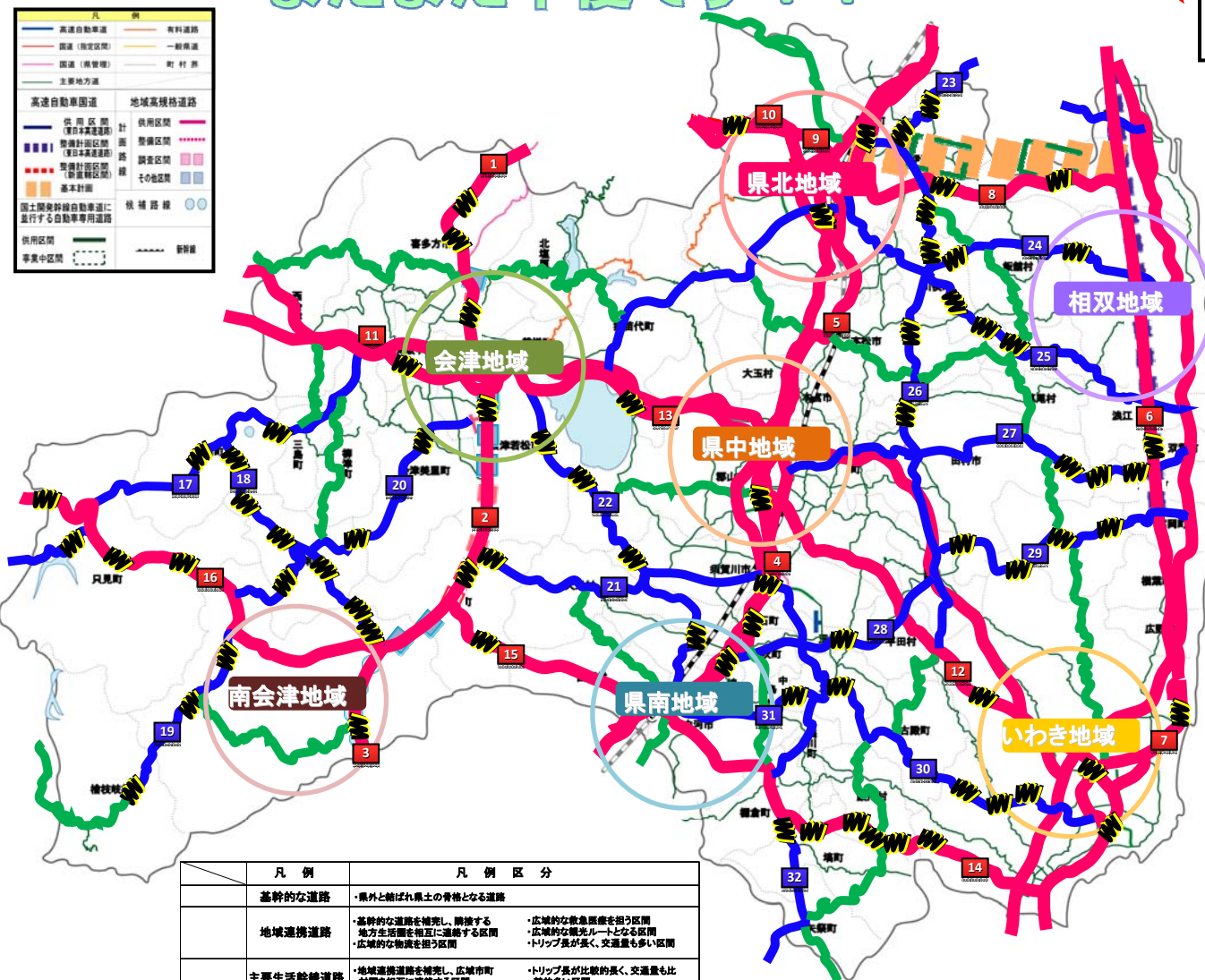
福島県の高速道路のネットワークは
まだまだ不足！

高規格幹線道路が 地域産業に与える影響



高速道路ネットワークの形成が
地域の産業発展を後押し！

基幹的な道路や**地域連絡道路**は、県外や他地の地域に車で移動する際に主に利用する道路で、**過酷な中山道の自立、物流、企業集積、観光交流、地域づくりを支援する役割を果たす**とともに、**多数の原付バイク通行をかかえる本県民の安心・定住確保を図る****緊急避難道路・乗込道路**、**高度な救急医療確保**までのアクセスを担う**交通の要路**です。しかし、これらの道路の中には、**大型車が安全にすれ違いできない・交通渋滞・交通不便・落石危険など、問題を抱えている箇所がまだ****まだ多く、本来必要とした交通機能に不備がある箇所が多く残されています**。これらの代表的な区間とその問題点を図示しました。



	凡 例	凡 例 区 分	
	基幹的な道路	・県外と結ばれ県土の骨格となる道路	
	地域連携道路	・基幹的な道路を補完し、隣接する 地方生活圏を相互に連絡する区間 ・広域の物流を担う区間	・広域的な救急医療を担う区間 ・広域の交通ネットワークとなる区間 ・トリップ長が長く、交通量も多い区間
	主要生活幹線道路 (主だった機能のみ)	・地域連携道路を補完し、広域市町 生活圏を相互に連絡する区間 ・地方生活圏内の骨格となる区間	・トリップ長が比較的長く、交通量も比 較的に多い区間 ・都市部・都市の骨格となる区間
	交通機能に 不備がある箇所	・大型車のすれ違い困難箇所 ・渋滞発生箇所 ・交通不能箇所	・落石危険箇所

※1 県内全ての交通機能に不備がある箇所を表すものではありません。
 ※2 1つの  で、一定区間の複数箇所を表しているものがあります。

課題分類図4 道路の維持管理における代表的な課題



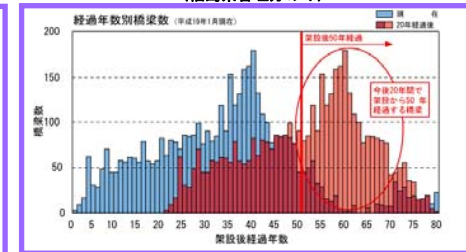
急速に進んでいる
橋りょうの老朽化!!



●**福島県内の橋りょうの現状**

福島県と国土交通省が管理する県内の国道・県道の橋りょうは、5, 202橋に上りますが、そのうち、約1割にあたる約500橋が、架設後50年以上に経過している老朽橋です。老朽橋の数は今後増加を続け、10年後には全体の約3割にあたる約1, 600橋、20年後には全体の約6割にあたる約2, 900橋が老朽橋になります。

現在と20年後の橋りょう架設後経過年数の分布状況
(福島県管理分のみ)



5倍以上に増加！！

このうち橋長が大きい車道橋については、修繕や更新の際に多くの費用を必要とすることから、橋長50m以上の車道橋の中から、下記の箇所を長寿命化と適切な維持管理を進めるうえでの課題箇所の代表として図示しました。

28橋

112橋

後 140橋

245橋

273橋